

新渡戸稲造『武士道』の書誌事項をめぐる混乱について

中島正道（日本大学生物資源科学部）

佐藤奨平（日本大学大学院生物資源科学研究科博士前期課程）

gr96098s@st.brs.nihon-u.ac.jp

中島めぐみ（農林水産省農林水産研究情報総合センター）

bless@affrc.go.jp

1. はじめに

新渡戸稲造が英文で『武士道』（初版）を著述したのは1899年（明治32年）アメリカ合衆国に病気療養のため滞在中のことである。新渡戸の著作権登録も1899年である。初版の著者「序」末尾に記載された年月は「1899年12月」である。これらの点についての異論は提出されていない。

しかるに、フィラデルフィアの出版社（The Leeds and Biddle Company）が、英文『武士道』（初版）を出荷・販売所配本・販売（実績）を行った年月日は不明であり、また「出版」（「刊行」、「発行」）年月日についても、「1899年」説と「1900年」説とが併存している。『新渡戸稲造全集』（教文館）各巻の記載の間や、矢内原忠雄訳（岩波文庫、原著は1905年の増補改訂版、その原訳本は1938年。矢内原伊作による改版は1974年）の記載にも混乱があると思われる。

本発表は、このような「混乱」の根拠を解明し、その克服策を模索しようとするものである。

2. 日本農学史における新渡戸稲造

新渡戸稲造は、明治期から昭和期にかけて活躍した農学者であるが、その活動は開明的かつ多面的であり、近代日本の教育・思想界に大きな影響を与えた。新渡戸は、札幌農学校教授、台湾総督府技師・殖産課長、臨時台湾総督府糖務局長、京都帝国大学法科大学教授、第一高等学校校長、東京帝国大学法科大

学教授、東京女子大学初代学長、国際連盟事務局次長、貴族院議員、太平洋問題調査会理事長などの要職を歴任し、これらの多くの活動が国際社会から高い評価を得ている。新渡戸は農業経済学・植民政策学の専門家として台湾の甘蔗栽培・蔗糖製造の改革にあたり、その「糖業改良意見書」は台湾糖業興隆の基礎となった。新渡戸の「糖業改良意見書」は、食品産業研究・国際地域開発学における基本書の一つとして位置づけられている。農学者新渡戸の著作『農業本論』『農業発達史』は、わが国農学史における古典的名著である。また、新渡戸はわが国における最初の農学博士の学位取得者の一人であり、日本農学史における位置づけは、きわめて重要である。『武士道』は、日本と欧米の思想的対話・交流分野の名著であり、新渡戸の農学分野の業績を学ぶ際にも基礎文献として熟読すべきものである。

3. 『武士道』書誌事項混乱の状況

『武士道』（BUSHIDO、英文初版）の刊行年をめぐる混乱の状況を以下に示す。

(1) 新渡戸稲造全集（教文館、全23巻別冊2巻、1969年～2001年11月15日、編集委員：高木八尺、松本重治、前田陽一、武田清子、斎藤真、小林善彦、佐藤全弘〔7名〕）

① 第1巻（「1899年」説）、1969年3月25日発行

『武士道（矢内原忠雄訳）』『訳者序（p.7）』『解題（p.411）』『略年譜

(p.449)」

- ② 第12巻(「1900年」説)、1969年9月25日発行
『Bushido, The Soul of Japan (THE TOKYO EDITION OF 1935)』「巻頭の各国版表紙写真と下段の説明文」「解題 (p.465)」
 - ③ 別巻一(「1900年」説)、1987年4月10日発行
『新渡戸博士追憶集(1936年版の再版)』「巻末の『新渡戸稲造博士略年表』の1900年の項」
- (2) 岩波文庫(岩波書店、新渡戸稲造の著作、1938年~2008年)
『武士道(矢内原忠雄訳)』(以下の①、②、③、④は「1899年説」。翻訳の底本は明示されていない。1935年の研究社版と思われる。)
- ① 1938年10月15日 第1刷
「訳者序」p.3
 - ② 1974年11月18日 第15刷改版発行
p.2(表紙裏)に「BUSHIDO, THE SOUL OF JAPAN 1899 Inazo Nitobe」と表示。(第1刷~14刷にはこの表示なし。)
p.6(「訳者序」の次の頁)に「改版にあたって」(矢内原伊作、1974年9月)岩波文庫カバー「青118-1」。
 - ③ 2007年4月5日、第91刷改版発行。
活字を大きくし、行間を拡大。ページ数が90刷までの159ページから177ページへと増大。ただし、内容は同一。一貫して「1899年説」が同一の文章で示されている。
 - ④ 1991年に「ワイド版 岩波文庫」シリーズ中に『武士道(矢内原忠雄訳)』が取り入れられたが、全頁②と同一である。

- ⑤ 鈴木範久編『新渡戸稲造論集』(岩波文庫カバー「青118-2」、2007年5月16日刊)。p.316に「1900年 Bushido(武士道)刊。」とある。
- (3) その他の新渡戸・武士道(英文)初版発行年についての言及
- ① 松隈俊子『新渡戸稲造』みすず書房、1969年。「1899年」説(p.265)。
 - ② TUTTLE 社英文ペーパーバック "Bushido"1969以降の裏表紙に「1899年」説。
 - ③ 高木八尺ほか編・東京大学出版会刊の英文著作集 "THE WORKS OF INAZO NITOBE" vol.1, 1972 ("Bushido"ほか)。"THE LIFE OF INAZO NITOBE"のうちの p.28 に 'Bushido: The Soul of Japan, published early in 1900.'とある。
 - ④ 奈良本辰也訳『武士道』三笠書房 1993年2月。「1900年」説(p.234)。
 - ⑤ 須知徳平訳『武士道』講談社インターナショナル、1998年6月。「1900年」説(p.2)。ただし、同書の帯カバーには「1899年—それは、アメリカで出版された。」と混乱している。
 - ⑥ 飯島正久(訳・解説)『武士道—日本人の魂』築地書館、1998年。「1899年」説(p.359)。
 - ⑦ 志村史夫『いま「武士道」を読む』丸善ライブラリー、1999年8月。「1899年」説(p.27)。
 - ⑧ 李登輝『「武士道」解題』小学館、2003年4月。「1900年」説(p.11)。
 - ⑨ 岬龍一郎訳『いま、掘って立つべき“日本の精神” 武士道』PHP エディターズ・グループ、2003年9月。「1899年」説(p.187)。
 - ⑩ 太田愛人『「武士道」を読む』平凡社

新書、2006年12月。「1900年」説 (p.76)。

これらは、発表者の手許にある文献中、教文館全集刊行開始年の1969年以降のものから摘録した。『武士道』英文原著初版の刊行年の言及は「1899年」説、「1900年」説がほぼ相半ばしていると言える。ただし、これらの言及は、その判断根拠を示していないものが多い点に留意しておく必要がある。

4. 「混乱」解決への先行研究

(1) 教文館『全集(別巻一 新渡戸稲造博士追憶集)』(1987年4月刊)所収のハワード・W・エルキントンの追憶文「新渡戸稲造」中で、「1898年出版」(p.489)と述べられているが、これに対し、佐藤全弘編集委員は「(訳注2)『武士道』1899年執筆され、1900年に出版された。」(原文ママ)と訂正している。意識的な「1900」年説提示の早期の事例である。

(2) 鳥居清治「幻の『武士道』草稿—歴史の検証」『新渡戸稲造研究(第3号、1994年)』のpp.156-157において、第1節「英文『武士道』の創刊年次」において「1900年1月」説を提示している。

(3) 佐藤全弘訳『武士道』(教文館、2000年1月)「まえがき」(pp.3-5)において、The Leeds and Biddle Co.刊の英文初版の「タイトルページ」および「その裏ページ」の鮮やかなコピー(鳥居清治氏提供)を示し、「出版年は1900年」「COPYRIGHTED BY INAZO NITOBEは1899年」と読み取り、次いで「1900年1月21日には早くもボルティモアで出ている『The American』紙に、書評がのっている」ところから、「出版はあくまで1900年、しかも1月で、2月以降では決してない。」と明快に結論づけている。

(4) 佐藤獎平「恒常的な社会倫理改革と新

渡戸稲造」『新渡戸稲造の世界(新渡戸基金、第16号、2007年)』2007年9月刊において上掲佐藤全弘説に対して「正しいと思われる」(p.204)と賛同しつつも、なお、鳥居清治氏提供のコピー出典が示されていないこと等から、『武士道』初版の書誌事項については、詳細な研究が必要と考える」との暫定的留保を行った。

5. 考察

(1) 『新渡戸稲造全集(第22巻)』(教文館、1986年8月)に新渡戸からW.E.グリフィス宛英文書簡の日本語訳(佐藤全弘訳)が収録されている。そのうちの第7信(1899年12月17日)は、次のように述べている。「この前のお便りで、私は『武士道—武士の教え』について筆をとっていることを話しました。私は健康の許すに応じて時をおいて筆をとり、今小さな本となります。失礼をもちえりみずその概要—ちょっとした「宣伝」—を同封いたします。出版され次第喜んで一冊お送りいたします。」(p.392)。この書簡によって、『武士道』初版英文原稿が1899年12月中旬に出版直前の状況にあったことがわかる(同書簡の英文は『全集(第23巻、1987年2月)』pp.530-531に収録されている)。

(2) 上記に続く状況は『全集(別巻二、2001年11月)』に収録された親友宮部金吾宛の新渡戸からの二つの書簡によって明らかとなる。

- ① まず、1899年12月23日付英文書簡中の一文「武士道についての僕の小事を、この便で佐藤に送る。君自身もどうかそれを読んでくれたまえ。」(巻末p.42、佐藤全弘訳。文中の佐藤とは、札幌農学校時代の一級上で、この書簡当時は校長の佐藤昌介。英文は同じ別巻二の巻末p.39)。

② 次いで、1900年2月7日付和文書簡の冒頭と末尾「先日 Boston ヨリ途中一書ヲ呈セリ。(中略)先達武士道の小冊ヲ学校へ送ツタ。当国ノ新聞ガ矢たらにほめる。」(別巻二、本文中の pp.635-636。別巻二は、邦文縦組み全710頁、横組み英文・同和訳が巻末から逆ページで全63ページを収録している)。

この書簡①、②によって、1899年12月20日頃には、印刷・製本が終わり、著者新渡戸の手許にも届いており、1900年1月には発売され、早くも各新聞等の書評で高い評価を受け始めていたことがわかる。佐藤全弘訳『武士道』の前掲「(訳者)まえがき」における訳者佐藤の結論を首肯するのに新渡戸発グリフィス・宮部宛の上掲書簡はほぼ充分なものであると言ってよい。

(3) ①発表者(中島正道)は、日本大学総合学術情報センターにおいて、2007年6月6日所蔵されている新渡戸稲造『武士道』の英文初版を同センター指定条件の下で閲覧し、佐藤全弘の前掲「(訳者)まえがき」中で、鳥居清治氏提供のものとして紹介された「タイトルページ」「その裏ページ」に相当するページを視認し、同一のものと判断した。その他いくつかの有益な内容を読みとることができた。

②また、発表者(中島めぐみ)は2008年9月6日Web検索により次の2点を確認した。

(i) 国立情報学研究所の NACSIS Webcat で Bushido / by Inazo Nitobe, Leeds & Biddle の条件で検索したところ、採録されている書誌データは1900年刊行の1件のみであり、所蔵図書館は4館(東京女子大、同志社大、日大総情センター、北海道大)であることがわかった。

(ii) US LIBRARY OF CONGRESS

ONLINE CATALOG で Bushido / by Nitobe, Inazo, The Leeds & Biddle で検索したところ1部所蔵されており、Published/Created の項目では1900(年)との情報を得た。

③以上により、新渡戸稲造『武士道』英文初版刊行年については、佐藤全弘「(訳者)まえがき」中の1900年が正しく、矢内原忠雄訳「岩波文庫・訳者序」中の1899年は誤りであると判断する。この判断は高木八尺・佐藤全弘らの提唱・先行研究の正当性を追認するものである。その限りでは、発表者(佐藤奨平)の佐藤全弘説への留保は解消したと言える。

④しかし、本発表のここまでの部分は同書書誌事項をめぐる「混乱」のごく一部分の根拠を解明したに過ぎない。日本における近・現代の社会科学研究者・思想家として大きな足跡を残した矢内原忠雄の僅かな小さな判断の誤りの深い根拠は、おそらくは著作権をめぐる日米両国の行政・出版業界・研究者・読者・図書館の理解のあり方の中に潜んでいるのであろう。

⑤とりあえず、矢内原忠雄没後50年(2011年)までに、岩波文庫(青118-1)『武士道』p.2、p.3、p.6の関係部分の訂正がなされることを希望したい。そのような希望が満たされるならば、他の出版社等の対応は容易に実現できるであろう。

(4) 本発表に到るまでの研究の進行途上で、日本大学生物資源科学部図書館・同食品経済学科統計資料室・日本大学総合学術情報センター・東京女子大学図書館・北海道大学図書館・国際交流基金図書館ほかの司書・職員およびいくつかの出版社の皆様にご多大のお世話になりました。「図書館に行って、本を実際に手にとることの大切さ」を痛感しております。有難うございました。